



コレクション展

い ま り か き え も ん な べ し ま
伊万里・柿右衛門・鍋島
— 肥前磁器の華 —

2011年5月28日[土]~7月3日[日]

[休館日] 月曜日



根津美術館では、2011年5月28日(土)から7月3日(日)まで、コレクション展「伊万里・柿右衛門・鍋島—肥前磁器の華—」を開催します。

肥前地方(現在の佐賀県および長崎県の一部)で江戸時代に作られた陶磁器は、唐津焼、古武雄焼といわれる陶器と、新しい技術で作られた磁器があります。この肥前磁器のなかで17世紀初め、朝鮮半島から伝わったものが伊万里焼といわれる染付磁器で、やがて伊万里焼から柿右衛門といわれる華やかな色絵磁器が完成し、藩窯として鍋島焼が始まります。

肥前磁器の楽しさは、中国の古染付や呉州染付、祥瑞などを手本にした初期伊万里染付から、空間を生かした文様意匠の作品が生まれ、やがて赤、緑、黄、紫などの色彩で文様を描く和様の色絵磁器へと展開するところにあります。始めは灰白色であった白磁も、純白の白磁へと完成度を高め、柿右衛門と言われる華やかな色絵磁器が完成します。17世紀中頃から肥前磁器は東南アジアから中近東諸国、そしてヨーロッパへと輸出され、海外市場の需要に応じた器形や文様の磁器が大量に作られました。同時に、国内市場でも高級品が作られるようになり、元禄頃(1688-1704)には京都でも質の高い製品として知られました。染錦手の皿や鉢はそれを代表するものです。藩窯としての鍋島焼は、藩の献上品として、独特の意匠と規格による器形で、優雅な色鍋島や染付、青磁釉などの鍋島磁器を作り出しました。

本展では、平成10年に山本正之氏から寄贈を受けた肥前磁器を中心に、磁器の始まり、またその展開の様相を100点余りの作品で通覧します。

《コレクション展》「伊万里・柿右衛門・鍋島」

展示室 1



いろえきさんかもんりょうかさら
色絵三果文稜花皿 柿右衛門 日本・江戸時代 17世紀
径 18.8 cm 根津美術館蔵 [山本正之氏寄贈]

柿右衛門特有の柔らかさを感じさせてくれる白い肌の磁器に、華やかな色絵で桃、石榴、仏手柑が描かれている。縁に施された鉄釉、余白の白さを際立たせ、吉祥を意味する果物を華麗な装飾にしている。



そめつけしらさきはすのぼもんさら
染付白鷺蓮葉文皿 日本・江戸時代 17世紀
径 28.6 cm 根津美術館蔵 [山本正之氏寄贈]

三羽の白鷺は、蓮葉の向こう側に伸びやかな姿で描かれ、背景は薄い瑠璃地となっている。瑠璃色は筆跡もなく斑もなく塗られており、その精緻さと対照的に青料の滲む蓮葉の描き方も秀逸である。



そめつけじゆじもんおおさら
染付寿字文大皿
日本・江戸時代 18世紀
径 37.0 cm
根津美術館蔵
[山本正之氏寄贈]

初期伊万里といわれる染付の大皿は、灰味を帯びた青料で文様が描かれている。しかも白磁ではなく灰色の胎土で厚手につくられ、初期の製品の特徴をみせている。



いろえあらいぞもんはち
色絵荒磯文鉢
日本・江戸時代 18世紀
径 24.9 cm
根津美術館蔵
[山本正之氏寄贈]

萌黄色の地に金彩の唐草文を描くのは、中国明時代後期の金欄手を模したものの。波濤から飛び上がる魚の図とともに中国、すなわち唐物を強く意識した図柄は、古伊万里最盛期の作風を示している。



(正面より)



(側面より)

そめつけばいじゆいわもんおおはち
染付梅樹岩文大鉢
日本・江戸時代 18世紀
径 25.5 cm
根津美術館蔵
[山本正之氏寄贈]

側面に鮮やかな青料で描かれた梅樹と岩、竹、松などは、柿右衛門といわれる意匠である。丁寧に描かれた文様にみられる、穏やかな色調の染付が見事である。



いろえしやうちくはいしぼがきもんりんかさら
色絵松竹梅柴垣文輪花皿 柿右衛門
日本・江戸時代 18世紀 径 18.8 cm
根津美術館蔵

[関連情報]

講演会 1 「伊万里の世界・鍋島の世界」

日時 2011年6月18(土) 午後2時から午後3時30分
講演 西田宏子(根津美術館 副館長)

講演会 2 「柿右衛門研究の現在」

日時 2011年6月25(土) 午後2時から午後3時30分
講演 桜庭 美咲氏(武蔵野美術大学 非常勤講師)

場所はいずれも根津美術館 講堂、定員140名

〈申し込み方法〉往復はがきに、希望する「講演会1」または「講演会2」、住所、氏名(返信面にも)電話番号を明記の上〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館『伊万里・柿右衛門・鍋島』宛にお申込み下さい。
「講演会1」は2011年6月3日(金)、「講演会2」は6月10日(金)締切(当日消印有効)
※参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。
※聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

◆ギャラリートーク

2011年6月3日(金)、6月17日(金)

※いずれも午後1時30分より約45分間 イヤホンガイドを使って行います。

※当日先着30名様に限らせていただきます。

※午後1時よりホールにて整理券を配布します。

※参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

— 同時開催 — 《テーマ展示》

■展示室2「近世の水墨画」



重要美術品 赤壁図屏風 ながさわろくせつ 長沢芦雪筆 日本・江戸時代 18世紀 (右隻)
根津美術館蔵

ながさわろくせつ 長沢芦雪 (1754~99) は円山応挙の門下であるが、師の端正な画風とは異なる奇抜な構成や奔放な筆致で異彩を放った画家。中国北宋の詩人・蘇軾が遊んだ赤壁の情景を描く本作品でも、誇張された山容や、山肌を走るブラッシュ・ワークに、芦雪の個性が発揮されている。



きざす 鷺図(鍾離権・鶴・鷺図のうち) かいほくゆうしゅう 海北友松筆 日本・桃山時代 17世紀 根津美術館蔵
簡潔ながら、濃淡の抑揚をそなえた水墨技法が印象的な作品。外隈であらわされた鷺の表現には、桃山時代の武人画家・海北友松(1533~1615)のユーモラスな側面もうかがえる。

じゅうろうじんず 寿老人図 わたなべしこう 渡辺始興筆 日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵

展示室5「硯箱 一机上の華一」



重要文化財 はなのしらかわさきえすずりばこ 花 白河蒔絵硯箱 日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵

満開の桜の下に佇む烏帽子狩衣姿の公達を金研出蒔絵で描き、絵の中に「花・白・河」の表した葺手の文字から藤原雅経の和歌を暗示している。足利義政遺愛の硯箱として知られ、文学性の高い意匠が魅力である。

展示室6「雨を楽しむ」



こそめつけておけみずさし 古染付手桶水指 中国・明時代 17世紀
根津美術館蔵

茶碗のしみを土壁の雨漏りに見立てた雨漏茶碗や、爽やかな染付の手桶水指、夜雨という銘をもつ茶入など、うっとりしい梅雨の季節を、風流と感じて楽しむ茶道具約20点を展示。

[開催概要]

- 【展覧会名】 コレクション展
「伊万里・柿右衛門・鍋島 一肥前磁器の華一」
- 【主催】 根津美術館
- 【開館期間】 2011年5月28日(土)～7月3日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日・展示替期間
- 【入館料金】 一般1000円 学生700円
* 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き
* 中学生以下は無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
*2011年4月16日(土)～5月15日(日)「KORIN展」開催期間中、美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、
B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問合せ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
<http://www.nezu-muse.or.jp>

<次回展>

コレクション展 「古筆切 一同に楽しむために」 2011年7月16日(土)～8月14日(日)

貴族の贈答品であった歌書が分割されて生まれた古筆切の、切断や命名の背景を考えます。

<リリース・広報のお問い合わせ>

担当: 鎌倉/朝倉/白原

TEL(学芸・広報/直) 03-3400-2538 / 携帯電話(鎌倉) 080-6622-2536

FAX 03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp